



の1年

これまでとこれから

2020年度の概要

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画していた多くの事業が中止もしくは規模縮小となりました。これにより団体運営に対しても大きな影響があったことは事実です。一方で、このような状況下でもJEEFは新たな取り組みを行ない、今後の活動に大きな可能性を見出すことができました。

ひとつは自然学校をはじめとした全国の環境教育実践者及び研究者のみならずとの関係性を再構築するとともに、環境教育及び自然体験活動の重要性を外部に対して発信したことです。具体的には新型コロナウイルス感染拡大に関する自然学校等への影響調査を自然体験活動推進協議会、日本アウトドアネットワークと共同で2回実施し、調査結果を公表、関係省庁等に要望書を提出しました。また、上記2団体と連携して「自然体験活動・自然教育・野外教育・環境教育を実施している事

業体における新型コロナウイルス対応ガイドライン」を作成し、全国の自然学校等に公開しました。さらにクラウドファンディング「自然学校エイド基金」を立ち上げ、約1千万円のご寄付をいただき全国の自然学校等の支援をいたしました。

自然学校エイド基金 結果ご報告

たくさんのご支援、ありがとうございました！

結果発表	期間: 7月1日～10月16日 (116日間)		4 頁の高い教育を みんなに
	目標: 1,000万円 寄付者数: 708名 寄付金額: 10,227,500円 (目標達成！)		

応援メッセージ

子ども達が豊かな経験が出来るように、これからも長く沢山の子どもが参加出来るように。

子供達の未来のために、応援しています！

子どもたちの教育で、人格を育むには自然と触れ合うことは不可欠であると思っています。

自然学校を必要とする子どもたち、親、そして学生たちのために、活動が続きますように。

子どもの頃、自然学校で様々な経験をさせていただきました。自分の原点とも言える自然学校を心より応援しています。

夏にキャンプに参加させていただいた後、おかげさまで息子は学校に行かれるようになりました。自然体験の力を改めて感じています。

自然学校の存在により、多くの人が地域で・地域から学びながら、活動を広げています。

本当にたくさんのメッセージを頂きました！ありがとうございます！

自然学校エイド基金

2020年7～10月にかけてクラウドファンディング「自然学校エイド基金」を立ち上げ、1,000万円以上の寄付が集まった。写真は寄付者に送った結果報告で、寄付者からの自然学校を応援するメッセージなどを紹介。

オンラインでの清里ミーティング

12月12日全体会2『世界の環境教育実践から学ぶ』より。スウェーデン、アメリカ、岐阜、広島をオンラインで結んで海外の環境教育を紹介。



生きものと気候変動

森へ行こうよ！

私は長い間森で動物たちの暮らしを調べてきました



市民のための環境公開講座

2020年度はオンラインで9回開催。写真は9月16日開催『もっと山や森の中へ』（講師：動物学者・「けもの塾」塾長／今泉忠明氏）より。

自然の中で出会った動物やこれまでの研究、氏が監修している『ざんねんないきもの辞典』に掲載されている生き物の話などをまじえながら、自然の中で過ごすことの大切さから地球温暖化に至るまで幅広い内容を講義。

コロナ禍により実施形態をオンライン開催に切り替えた結果、参加者が大幅に増えた事業もあります。市民のための環境公開講座では参加者が前年の数倍に増え、清里ミーティングでは海外から参加する方もいました。また、このようなオンラインのイベントを多数開催することでJEEF内でオンラインでのイベント企画・運営のノウハウを蓄積することができました。

2021年度に向けて

依然としてコロナ禍の影響は続きますが、昨年度に培った自然学校等とのネットワークやオンライン開催のノウハウを今年度は如何なく発揮する年にしたいと思います。

自然学校等への影響調査も引き続き実施する予定です。

2022年度、JEEFは創立30周年を迎えます。次の30年に向けてJEEFが更なる飛躍ができるよう、一層のご支援をお願いします。

文責：伊地知 透（JEEF）